

イヒナビ

vol.22 *ihinavi*

旭化成ホームズ株式会社
東京法人支店



～子どもの心とカラダに、高齢者にも好影響～

ペットと触れ合うと幸せホルモン分泌

～大切な家族だからこそ守りたい～

いざという時、ペットを守る！

～いつもの我が家で災害時も避難できる安心感～

ペットや家族と在宅避難という選択

ペットとの暮らしは子どもの心とカラダ
そして高齢者にも好影響

ペットと触れ合うと 幸せホルモンが分泌♪



子どもの成長に大きく影響する、ペットとの暮らし

ペットと暮らすことは、私たちの心と体にさまざまな良い影響をもたらします。特に注目されているのが、「幸せホルモン」とも呼ばれるオキシトシンの分泌です。ペットをなでたり、アイコンタクトを取ったりすることで、オキシトシンが自然に分泌され、ストレスの軽減や心の安定につながるとされています。

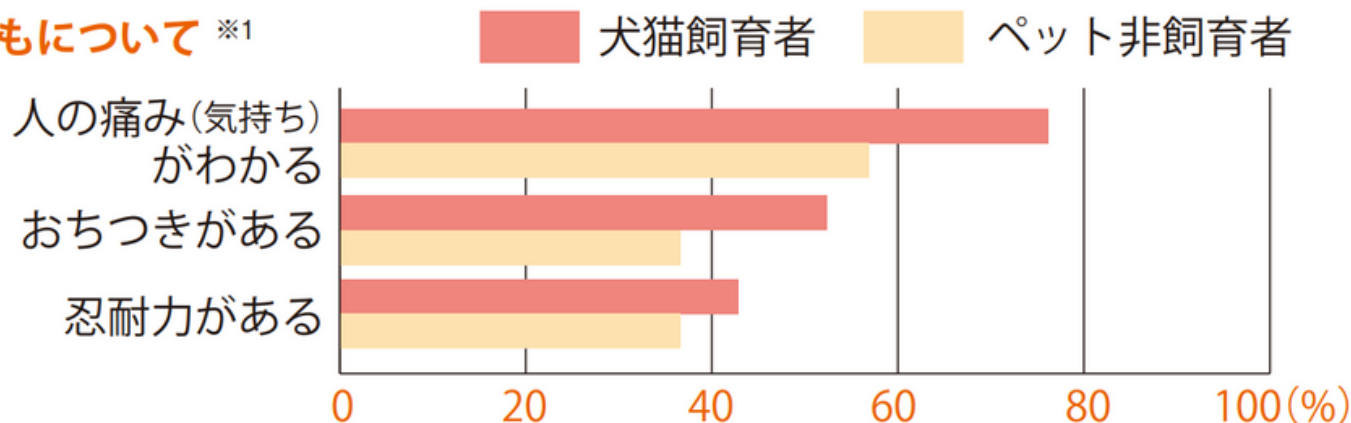
また、ペットとの触れ合いは子どもの情緒的な成長にも良い影響を与えてくれます。思いやりや責任感を育むだけでなく、日々の関わりの中で安心感や信頼関係を学ぶことができ、社会性の発達にも役立ちと言われています。

データで見る、子どもへの影響

下記のグラフからもわかるよう、ペットと暮らすことで得られる子どもへの影響は多岐にわたります。ペットと触れ合うことで「命の大切さ」や「思いやりの心」を自然に育むことができます。ペットの世話を通して、人の痛みや気持ちを理解する力が養われ、正しい生命観や人生観の形成にもつながると考えられているのです。

また、エサやりや散歩などの継続的な世話を通して、忍耐力や責任感が身につき、ペットと接する時間が子どもの気持ちを穏やかに保つ効果もあるとされています。ペットと暮らすということは、子どもの成長に大きな影響を与えます。

子どもについて ※1





ご高齢の方に与える影響

高齢者にとって ペットとの暮らしは 心や体に元気と活力

ペットとの暮らすことで通院回数が減少する調査結果も！

ペットと暮らすことは、心の癒しだけでなく、医療費の抑制につながる効果もあることが分かってきました。最近発表された貴重な研究結果によると、高齢者の通院回数に明らかな差が見られました。具体的には、犬を飼っていない人の年間通院回数が平均10.37回であったのに対し、犬を飼っている人は年間8.62回と、約2回も少ないという結果が出ています。

これは、ペットとのふれあいがストレスを軽減し、心身の健康を維持することにつながっていると考えられています。こうした効果は、年々増加している国民医療費の抑制にも貢献する可能性があり、ペット飼育の新たな価値として注目されています。

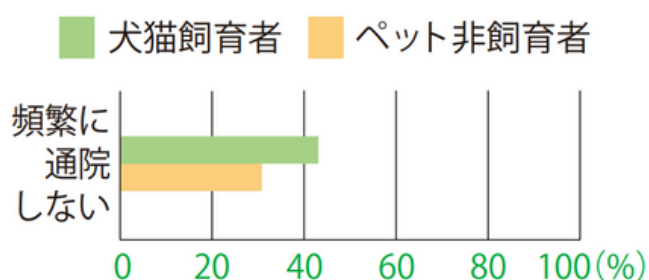
親世帯に提案したい、ペットとの暮らし

ペットの存在は、高齢者の心に大きな安らぎをもたらします。日常の中で感じやすい孤独感をやわらげ、ペットは毎日そばにいてくれる存在であり、言葉は交わさなくても、目を合わせたり、触れ合ったりすることで、「誰かとつながっている」という安心感を得ることができます。

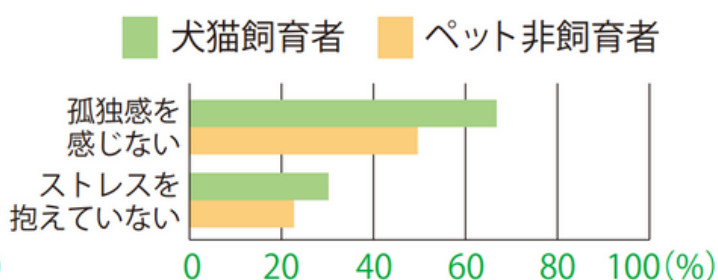
また、ペットの世話を通じて生活にリズムが生まれ、「今日もごはんをあげよう」「散歩に行こう」といった小さな目的が日々の生きがいとなり、心に張りが出てくるのです。

さらに、ペットを通じて近所の人との会話が生まれたり、散歩中に自然とコミュニケーションが生まれたりするなど、社会とのつながりを持続けるきっかけにもなります。もし、これから二世帯住宅などを検討している場合は、是非ペットとの暮らしも検討してみてください。

高齢者について ※1



自分自身について ※1



幸せを与えてくれるペットを迎え入れたら考えたい

いざという時 家族であるペットを守る 防災対策



最寄りの避難所のペット受け入れ体制を知っているのは、わずか20%程度

ペットと暮らしている人は、年々増えてきています。しかし、ペット飼育者が最寄りの避難所のペット受け入れ体制を知っている人はわずか20%程度だということがアイペット損害保険の調査でわかりました。また災害時のために、ペットに関する防災対策に関してはばらつきがあり、子どもの成長やご高齢者にも寄り添ってくれるペットたちの安心安全のために、ペット飼育者の方にはしっかりとペット防災についての知識も学ぶことが大切なのではないでしょうか？

同行避難と同伴避難の違いをご存知ですか？

同行避難とは、避難所までペットと一緒に避難することを指します。避難所ではペットは専用スペースで過ごすことになります。同伴避難とは避難所の建物内でもペットと一緒に過ごせることを意味します。ペットが飼い主と同じスペース、もしくは近い場所で過ごせるケースで、より人とペットの共生に配慮された避難体制です。

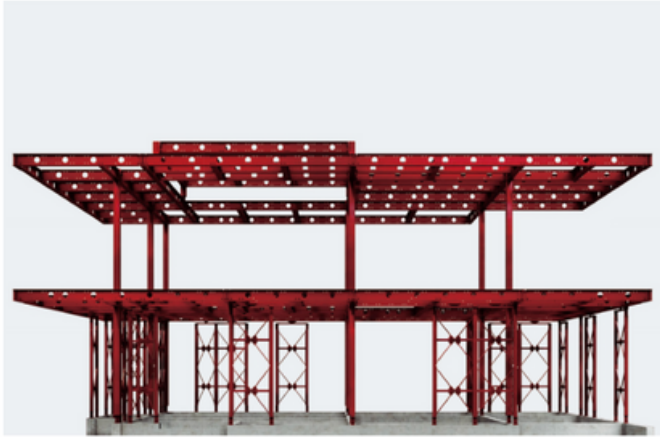
しかし、同伴避難ができる避難所は限られたところしかないのが現状です。

ペット防災対策 ～日頃からできること～

今からできるペット防災対策は以下です。特に同行避難の場合は、飼い主さんと一緒の場所過ごすことができませんので、キャリーやクレートで安心して暮らせるよう日頃からトレーニングしておくことが大切です。

- 避難所の確認
- ペットの防災グッズを用意（フード・水（最低3日分）、リード、キャリーケース、ペット用トイレ、薬、写真などを備えておきましょう）
- キャリーやクレートに慣らす
- しつけ・健康管理（無駄吠えやトイレなどの基本的なしつけ、ワクチン接種・フィラリア予防など健康管理も忘れずに）
- 迷子対策（首輪に名前と連絡先のタグを付ける、もしくはマイクロチップを装着しておきましょう）

HEBEL HAUSの家で ペットや家族と在宅避難という選択



もしものときに、
ペットの暮らしを守る住まい。

【テクノロジー】

ヘーベルハウスでは、災害から家族の命を守るために、災害に強い構造躯体から設備、各種サポートまで総合的に備えたトータルレジリエンス（＝総合防災力）に優れた住まいづくりに取り組んでいます。



どんなときも、
家族みんなでいられる安心を。

【太陽光発電システム+全負荷対応型蓄電池】

環境の変化に敏感なペットのためにも、災害後はできる限り在宅避難にしたいもの。太陽光発電システムと全負荷対応型蓄電池を備えておけば、仮に電力供給がストップしても電気製品が使えて安心です。



幸せな日常を、
一刻も早く取り戻すために。

【トータルレジリエンス】

各分野のエキスパートとの連携・防災情報システム「LONGLIFE AEDGiS」により、迅速に被害を把握、早急に訪問し修復計画を立案します。保険手続きも代行し、早期復旧を目指します。

避難所は色々な
人もいるから
ストレスも
かかりそう

在宅避難が
できたら
安心だね



＜編集後記＞

ペット飼育者数はこの10年間で、急激に伸びています。
特にコロナ禍では、いつものように生活ができず、様々なストレスからペットを飼育する人が増えました。

そしてペットと暮らすということは、私たちにとって、大きな幸せをもたらしてくれることが様々な調査結果でも発表されています。

HEBEL HAUSでは最近、二世帯住宅を検討されている方が大変多いです。土地の問題や資金面でのメリットがありますし、さらに親世帯と子世帯の交流も深まっていく点も魅力を感じられているお客様が多いです。

そんな二世帯住宅であれば、そこにペットがいることでお子様の成長にも様々な影響があり、親世帯の健康にもプラスになってくるのではないのでしょうか？

HEBEL HAUSはペット研究会を1998年に発足し、ペット共生住宅について研究を続けてまいりました。家づくりの中にペットも快適に暮らせる様々なご提案をしております。

ぜひ、お気軽にペットと暮らす家について、二世帯住宅についてなど、私どもにお気軽ご相談ください。